



神金公民館だより

第150号
2022年
9月1日

猛暑の夏

6月のうちに梅雨明けとなり、今年の夏はとんでもない暑さとなり、猛暑日が続くのではという予報通り、猛暑の夏となってしまいました。

県内でも熱中症患者が増加する暑さ指数（WBGT値）が28（嚴重警戒）を超える日が続きました。さらに、すべての生活活動の中で熱中症が発生する危険性があるとする31（危険）を超える日が一週間以上も続くこともあり「熱中症警戒アラート」が連続して発せられました。

県内で昨年発表された「熱中症警戒アラート」は12回でしたが、今年は8月半ばですでに13回発表されていて、今年の夏の暑さを証明する数字だと思います。

再び感染拡大しているコロナウイルス感染防止のための新しい生活様式と併せて、熱中症への対応も必要となるなど、健康管理に心がけが必要な夏となりました。

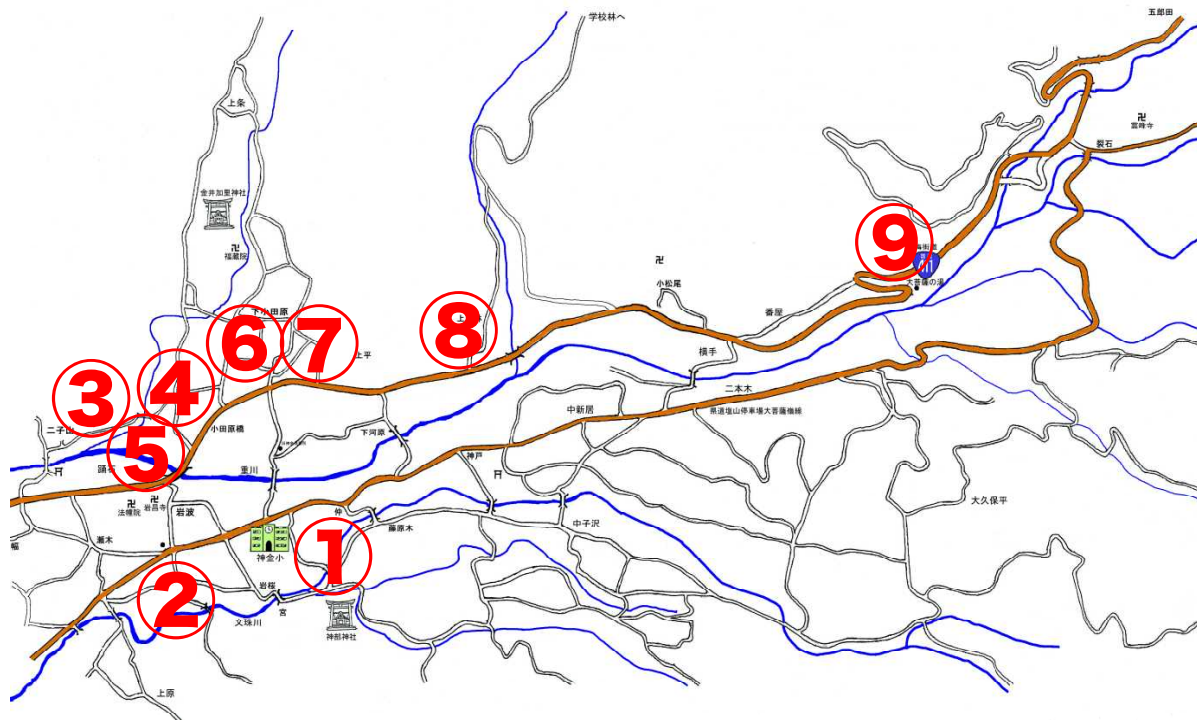


組内回覧でお知らせしたとおり、神金地区納涼花火大会は中止とさせていただきます。打ち上げ業者と数度にわたり検討しましたが、消防水利などを考慮し、中止の判断をしました。

感染が再拡大しています。感染防止のための取り組みとして、公民館使用时には、名簿に参加者名を記入するとともに、検温結果の記入をお願いします。

また、マスクを着用し密集にならないようにし、換気を行いながら使用してください。

神金地域内AED設置場所



①神金小学校 33-2752

◎緊急時に職員不在の場合は、窓ガラスを割ってよいことになっている

②神金公民館・2階児童クラブ内 ◎児童クラブ用に教育委員会管理

③第二塩山荘 32-5236

④サンリバー塩山 33-7733

⑤萩の里老人ホーム 33-7742

⑥黒川スタンド 32-3554

⑦神金分団第4部詰所内の車庫内 ⑧神金分団第3部ポンプ車搭載

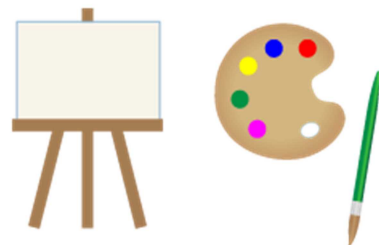
⑨大菩薩の湯 32-4126

倒れている傷病者に意識がなく、普段どおりの呼吸がないときに使用するAEDの地区内設置場所一覧を、防災アドバイザーに作成していただきました。



◇神金文化祭展示作品の募集◇

11月開催予定の神金文化祭の展示作品を募集しています。写真や絵画、書道作品、生け花などを展示予定です。地区内の方々の様々な作品を展示していきたいので、ご協力をお願いいたします。



神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が、神金小学校PTA会報「ふもと」に執筆し寄稿した「神金の歴史」をシリーズで紹介します。

令和になった今、神金で生きる者にとって、この地で生活した人々の足跡を鮮やかに蘇らせ、知恵や遺産・心意気を学び、心の大きな後ろ盾や糧になればと願います。

道 二

神金において、大昔から利用されたと思われる道が下小田原にあるので、その道とともにあった特筆すべきものを紹介したい。

竹森の横手から二子山の間を越えると下小田原が全望できる。この山裾の道を北進すると上条の道祖神さんの前が出る。この途中で金井加里神社の真西で道下に石の祀がある。この一帯に神明と言う地名があるので神明社が祀られているものと思う。

上条の中央（道の上段）に、昔は立派な観音堂があったと言われているが、今は祠とその跡が残されているのみである。その東に浅間神社があり、昔は盛大なお祭りが催されたが、今は昔を偲ぶよすがはない。四つ角を南に下り中村一真氏の西を下り上条川を渡った右に椿の古木がある。ここに丸山のお地蔵さんといって霊験あらたかなお地蔵さんがある。作物の豊凶、縁組、うせ物等、思案に余ったときは約四十軒余の石のお地蔵さんが自らの体重にて諸々のお伺いにお答えになった由である。筆者も幼い時祖母に連れられて数回お参りしたことを覚えている。

そこから約三十米東に富士塚が見える。高さ三米余、直径九米程の円形の塚がある。昔（江戸中期）、博打ちや喧嘩がはやり、それに加えて流行病もはやり、一家絶滅や流散する家があとを絶たないという状態になった。時の石和代官は信仰によって流行病に苦しんでいる部落を救わんとして富士山を信仰することを勧め、富士講をつくり富士塚を築くことを命令した。その代償として富士講やお祭りの費用を含め富士塚地内、畑三十二筆、約一丁歩の税金を免除したそうである。しかし、鬼より恐いお代官様の命令で築かれ強いられた信仰が、下小田原の住民から崇敬されず、まもなく富士講もなくなり富士塚にお参りする人もなかったそうである。今は塚の上に榎の大木が茂り、それに藤が巻きついて花の盛りである。

富士塚を半周して山裾を南下すると、小田原の有名なお不動さん跡にある石尊権現の碑がある。それを右に見て古屋昭二氏の前に出ると（この辺りの山に雷を祀った東天神と西天神が祀られている）、原の京から昔鍛冶屋のあった鍛冶屋沢に入る。 *次ページに続く

神金の歴史

そこを通り筆者の裏を登った左側の山際に白峯山常聖寺の跡があり、無塔や供養塔が残されている。この寺の石段の下を東に二十米の所から浜松大地の西端を登りつめた右下に天神さんが祀られている。銅板葺きで檜作りの立派な祠が建っている。浜松神社を右下に見て上手林から小松尾・番屋・裂石方面に通じたのである。昔から、一ノ瀬高橋から金が採取された。これに要する人員、物資の輸送路が開かれたが、時代と共に幾多の変遷があったものと思われる。

三枝守国の時代には、野呂（一宮町）・勝沼・牛奥・下萩原・中萩原・上萩原と通じたものと思う。安田義定は、小原の館から塩後・千野・竹森・平沢から三窪を超えて高橋に入ったものと思う。一部山道が急坂であるが最短の道である。

日蓮上人の日記によれば「勝沼・休息を経て黒川・丹波に遊化す」とあるので、現在伝えられている黒川往還を錫杖をついて難路をお登りになったと思う。

武田信成、信春は千野の館（今の慈徳院）から竹森を経て三窪を越えたのである。武田三代の時代は府中から萩原口を裂石まで登り、金山道を利用したものと思う。徳川の時代は甲州街道が通じたので勝沼・休息・山村から黒川往還を登ったのである。黒川千軒と称され、多数の人が居住していたことは事実である。この人達の生活資材の内、黒川で自給できるものは木材と薪炭ぐらいで他は総て馬の背で国中から運搬したのである。この輸送路は甲州街道が開通するまでは、小原方面で調達し萩原口を利用した。その後は栗原や勝沼宿から調達し、休息・山村を経て西野原から山裾の道を牛奥、下萩原へと進んだのである。

この辺りの老人は今も、この道を黒川往還と言っている。下萩原から中萩原へと進み、山裾を向久保・小山から上原の今井氏の上に出て、神部神社の西に出る。更に神部神社前から文珠堂の東を通り藤原木の道祖神さんの前から神戸の天神さんの下を過ぎ、薊雲山庚申寺の石段の下から二本木に登り、雨宮勘衛門氏の下から重川を渡り、番屋の関所を通過し裂石に至り、雲峰寺の手前で左折し柳沢峠に至ったのである。

現在の道路は、山梨県が昭和二十九年に起工し約七ヶ年の年月をかけて柳沢峠まで貫通した。柳沢峠から東は既に東京都がつくり完成していた。現在の道は九十九折りしているが、旧道は川に沿って登ったのである。従って大体直線であり道のりは現在の半分程度ではなかったかと思う。柳沢峠から横手山に行く道は平坦であるが、道を急ぐ者は葡萄沢口、寺尾口の二つの近道があったのでこれを利用した。寺尾口は急坂であり通行人が少なかったが葡萄沢口は通行人が繁かったそうである。この二つの道は現在も利用されている。

この外、赤尾橋から下粟生野、糶屋、清水、中萩原、上萩原を縦貫し、砥山峠に至る道、仲子沢から下日川峠を経て、嵯峨塩に至る道、下小田原から上条峠を越えて平沢に至る道、柳沢峠から高橋に至り、犬切峠から一之瀬・二之瀬・三之瀬を経て将監峠を越えて武州三峯神社に通ずる道もある。